

梅雨明けの猛暑により、管内で「熱中症事故」が5件発生！！

- ・梅雨明けの急激な気温の上昇により、近畿管内各地で熱中症が発生しています。
- ・請負者迅速な対応により、幸い大事に至ったケースはありません。
- ・熱中症発症が疑われる場合は、躊躇せず医療機関へ搬送・受診を行ってください。

水門築造工事 (三重県 9:30に発症 気温 29.9℃ 湿度66%)

- ・足場の整備作業中、作業員の行動に独り言等の異常が見られたため、応急処置を行い、救急車を要請した。
- ・作業員は野外作業が久しぶりであり、また体調不良をおして作業を行ったため、熱中症を発症したと考えられる。

鋼橋上部工事 (奈良県 16:55に発症 最高気温 34℃ 湿度54%)

- ・ケレン作業に従事していた作業員が当日の作業を終えて帰宅途中、車内に嘔吐し、しゃべる事が出来ない状態になったため、病院へ搬送。
- ・適宜休憩を取り・スポーツドリンク等により水分を摂取していたが、連日の猛暑での作業であったため熱中症を発症した。

道路工事 (和歌山県 15:50に発症 気温 30.3℃)

- ・作業員は型枠溶接作業に従事していたが、疲労のため休憩。両足がつり始めたため、救急車を要請。
- ・休憩所などの施設、熱中飴等の完備を行っていたが、連日の猛暑及び作業場に日陰がなかったことから作業員の体力が低下し、熱中症を発症。

築堤工事 (兵庫県 11:10に発症 気温 34℃)

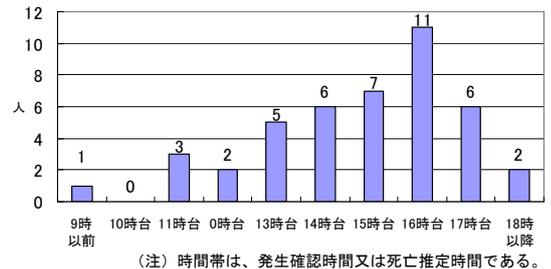
- ・交通規制を行っていた交通誘導員が暑さのため倒れた。
- ・猛暑の中での作業であったため、熱中症を発症。

高架橋上部工事 (兵庫県 13:50に発症 気温 35℃ 湿度80%)

- ・作業員がフェンス取付中に、めまいがすると主任技術者に申し出た。
- ・監理技術者が現場車両にて、病院へ搬送した。

全国の労働災害 熱中症による時間帯別死亡災害発生数(過去3年間)

- ・熱中症による死亡者を時間帯別に見ると以下のとおりです。
(平成19年～平成21年 厚労省通知より)
- ・午後3時台から午後4時台に多発し、全体の約4割が発生しています。
- ・平成21年度については、8名の方が亡くなっています。
- ・上記8名について、全員が定期的な水分・塩分を摂取していませんでした。
また、7名についてはWBGT値の測定を行っていませんでした。



熱中症の発症には個人差があります

- ・体調はその日、その人によって様々です。
特に以下の状態は熱中症発症のリスクが高まります。

- 風邪、下痢などの体調不良
- 食事の未摂取**
- 前日の飲酒
- 睡眠不足**



効果的な対策をとみましょう

- ・熱中症を発症しないために、
- 作業前の水分、塩分補給。
- 計画的な(時間を定めて)水分、塩分補給。
- 不調を感じたら、早めに申告。
- 食事(特に朝食)・睡眠をきちんととる。

WBGT値(暑さ指数)を現場で活用しましょう

- ・WBGT値(暑さ指数)は作業日における熱中症発症の危険性を知るために有効な手段です。
- ・WBGT値は人体の熱収支に影響の大きい**湿度**、**輻射熱**、**気温**の3つを取り入れた指標です。
- ・市販の測定器の他、WBGT値は、環境省の携帯サイトで主要都市の値が確認できます。
右のQRコードよりアクセスし、現場の熱中症予防に活用してください。

環境省熱中症予防情報サイト



熱中症の兆候を察知し、重症化を防ぎましょう

- ・熱中症の兆候を知ることは重症化を防ぐために重要です。
以下の症状が現れたら速やかに涼しい場所へ避難し、救急車を要請するなど、早急の対応を行いましょう。

- 意識障害、倦怠感、めまい、頭痛などの身体の不調。
- 心拍数が数分間 180 - (年齢) / 分の値を超える。
- 作業強度のピークより1分後に心拍数が120 / 分を超える。



(裏面につづく)

架空線の損傷事故には十分に注意してください！！

メッセンジャーワイヤーを切断し、電柱が倒れる

<事故概要>

- ・バックホウにて資材搬入中に、ブームを上げたまま走行し、上空の架空線（メッセンジャーワイヤー）を切断。
- ・切断に伴って、電柱が倒れて家屋3件が損傷。

<事故発生原因>

- ・架空線の近接箇所にも関わらず、バックホウのブームを上げたまま走行したこと。
- ・架空線の明示・防護がなかったこと。
- ・バックホウ運転手の確認が不十分だったこと。

事故状況写真



メッセンジャーワイヤー切断により倒れた電柱



<事故防止対策案>

- ・架空線の明示・防護を行い、走行の際は必ず目視で確認する。
- ・誘導員を配置する。
- ・架空線付近では、ブームを上げたまま走行しない。

NTT引き込み線に接触

<事故概要>

- ・工事区域で碎石の撤去中、バックホウのアームが、旋回時にNTT引き込み線に接触。
- ・民地側電柱の引き込み線留め金具が外れた。

<事故発生原因>

- ・作業前に架空線の位置とバックホウの位置を確認していたが、刃先に気をとられ、上空の架空線に接触した。

立看板で注意喚起（事故後改善）



事故状況写真



<事故防止対策案>

- ・架空線について、注意喚起の看板を設置する。
- ・監視員を配置する。

もらい事故が多発しています！！

- ・現道上でのもらい事故が、6月に入って、続けて発生しています。
- ・施工計画を確認し、もらい事故の発生を事前に防ぎましょう。また、人的被害についても未然に防ぐ、または最小限に抑えられるような対策を実施してください。

（6月に発生したもらい事故）

- ・一般車両が規制用のカラーコーンを跳ね飛ばし、車道センター側で作業を行っていた作業員と接触し、作業員が跳ね飛ばされる
- ・交通渋滞での微速運転中に、よそ見運転の後方車両に追突される。
- ・落下物回収のため、道路巡回車で走行車線を走行中に後方からのバイクに追突された。

もらい事故の防止対策案

- ・視認性の向上、体感により知らせるなどの気付けさせる工夫。

- ・人的災害抑制、進入防止策などの守る工夫。



バルーン照明による危険周知



横断幕による周知



ガードマンロボットの設置



大型電光掲示板を高い位置に設置



体感マットで運転手の注意喚起

デルタクッションによる防護

